

(宿泊業)

宮古島リカバリープロジェクト感染対策ガイドライン Vol1.0

宮古島リカバリープロジェクト委員会

委員長 砂川靖夫

1.従業員の健康管理

1-1. 従業員は、入社時に体温確認と健康チェックを行い、軽微であっても発熱や咳など症状があれば休ませる。流行地域からの観光客との接点がある場合には、保健所に連絡して、医療機関への受診方法について指示を受ける。

1-2. 新型コロナウイルス感染が確定した場合

- ① 当該従業員は原則として入院措置となる。
- ② 発症前 3 日から入院措置となるまでのあいだに接触が疑われるすべての従業員について、接触のあった日から 1 4 日間は仕事を休ませる。PCR 検査等を実施して陰性が確認されたとしても休ませる必要がある。経過中に症状を認めたときは、速やかに保健所に連絡して、医療機関への受診方法について指示を受ける。

1-3. 新型コロナウイルス感染が確定しなかった場合

①当該従業員については、新型コロナウイルスの検査結果が陰性だったとしても、以下の 3 つの条件がすべて確認されるまで休ませる。

- 1) 咳などの呼吸器症状が改善している
- 2) 解熱してから 3 日間が経過している
- 3) 症状が現れてから 7 日間が経過している

② 発症前 3 日から入院措置となるまでのあいだに接触が疑われるすべての従業員について、接触のあった日から 1 4 日間は観察期間とし、この間はサージカルマスクを必ず着用し、手指衛生も心がけながら業務にあたらせる。経過中に症状を認めたときは、集団発生が疑われるとして速やかに保健所に連絡して、医療機関への受診方法について指示を受ける。

2.宿泊施設における感染対策

2-1. 従業員と宿泊客との接触頻度をできるだけ減らし、かつ接触する従業員をできるだけ固定する。宿泊客と 1メートル以内に近づく可能性がある従業員は、常にマスクを着用して業務を行う。

2-2. チェックインなど宿泊客が並ぶ可能性がある場所は、間隔を空けた待ち位置を表示して、宿泊客同士の距離が 1メートル以内とならないようにする。

2-3. フロントなど観光客と直接対面して会話する場所は、アクリル板やビニールカーテン

などで飛沫感染を防止する。フロントデスクや筆記具等については、頻繁に清拭消毒を行う。

- 2-4. 館内の説明は従業員による対面説明ではなく、文書を配布したり、QRコードによる動画紹介を導入する。
- 2-5. 施設内で不特定多数が触れるものをできるだけ減らす。エレベーターホール、トイレなど接触機会が生じる場所には消毒液（消毒用アルコール等）を設置する。こうした接触面については、定期的に清拭による消毒を行う。
- 2-6. 宿泊客が密集しやすい場所は、適宜換気を行う。空調機については、できるだけ外気導入タイプのもを活用する。
- 2-7. 返却されたルームキーやキーカードの消毒を徹底する。
- 2-8. 客室清掃を担当する従業員は、マスクと手袋を着用したうえで、テレビや空調のリモコン、部屋の照明スイッチ、スタンド、冷蔵庫など宿泊客が触れた可能性がある場所を清拭消毒する。

3.各施設に感染の症状が出た場合の対応

- 3-1. 症状に不安がある場合、24時間コールセンターへ連絡して支持を仰ぐ。「沖縄県 新型コロナウイルス相談窓口 T e l 098-866-2129
- 3-2. 観光協会へ状況へ情報を提供する。メール：info@miyako-guide.net

【その他沖縄県の間合せ機関】

日中の間合せ先 : 宮古保健所 0980-72-2420

空港での水際対策: 宮古空港内TACO (タコ) 宮古分室